

令和8年度

徳島市沖洲小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善・充実
- ②自ら学び、自ら考える子どもの育成

校長

米田 直紀

学力向上推進員

教務主任:宮下 鉄矢

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、学力向上委員会等の機会において、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「授業中、先生や友達の話をかきんと聞いている。」(以下A)の肯定意見は91.6%と90%以上ある。 ●長い文章を正確に読み取ったり、自分の考えと比べながら聞くことに課題がある。	・Aの90%以上を目指す。 ・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。	・各学年で視写や聴写の取組を行う。 ・聞き方スキルを基に聞き方を高めるトレーニングを行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し方ナビを意識して、理由をつけて意見が言えるようになってきている。 ●「授業中、進んで発表しようとしている。」(以下B)の肯定的意見が54.2%だった。	・Bの80%以上を目指す。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・話し方スキルを提示し、相手を意識した話し方や、場に応じた適切な声の大きさを指導していくとともに、その状況を客観的に見ることができる状況を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、一生懸命取り組むことができる。 ●「家庭でも、毎日勉強し、宿題をかきんとする。」(以下C)の肯定的意見は79.5%であった。 ●自分の意見をもつことやそれを表現することに苦手意識がある。	・宿題や課題はきちんと提出することができる。家庭学習や自主学習に進んで取り組むことができる。Cの80%以上を目指す。 ・自ら問いをもち、よりよい解決に向けて考え、伝え合いながら、自分なりの答えを導き出し、さらに問い続けることができる。	・家庭学習の手本となる児童の内容を紹介し、着目すべき点を説明する。 ・宿題の内容や生活リズムなど、家庭学習が難しい背景を早めに捉え、課題の選択や学習習慣の確立を図る。 ・次時へつなげる問いが生まれるように単元を構想する。			